



Amir Tsarfati

2020年11月18日「イエス：人なのか？それとも神なのか？」

—イエス・キリストの神性について—

シャローム。ビホールド・イスラエルのアミール・ツアルファティです。これから、セス・ポステル博士のインタビューをご紹介します。テーマは、「キリストの神性」これは、驚くような重要な主題の一つであり、世界中の多くの人々が見過ごし、ほとんどのクリスチャンが誤解しているものです。私達が救われる為には、メシア、イエスを他ならぬ神として信じることは不可欠です。そこで、セス・ポステル博士と一緒に、ユダヤ人メシアであるイエシュア（イエス）の神性について、聖書に何と書かれているかを探ってみましょう。『イエスの神性は、なぜそんなに重要なのか？』

アミール： シャローム、セス。お元気ですか？

ポステル博士： こんにちは、アミール。ご一緒できて嬉しいです。

アミール： セス・ポステル博士、あなたとは1993年ほぼ私が信者になって以来のお付き合いですね。

ポステル博士： はい。

アミール： あなたはイスラエルに移住してきたばかりで、ここにずっと住まわれるかどうか、まだ分かんず。

ポステル博士： その通りです。

アミール： ニュージャージーの男がイスラエルに来て…

ポステル博士： 私のせいではありません。

アミール： あなたのせいじゃない。私はあなたを責めたりしませんよ。ニュージャージー！でも、兵役時代からの付き合いです。間違っなければ、歩兵隊にいましたよね？

ポステル博士： そうです。

アミール： それから、イスラエルを離れましたね？元々は3年間の予定だったのが、9年間になったんですよ。あなたは学位を取得されて、修士号と博士号をアメリカで取得していますね。

ポステル博士： そうです。

アミール： どうやってメシアに信仰を持つようになったのか、手短かに教えていただけますか。

ポステル博士： はい。私はユダヤ人の家庭で、ニュージャージーで育ちました。近所の人たちが、ほぼ全員ユダヤ人という地域に住んでいました。その近所全体で異邦人は2人で、他はみんなユダヤ人だったと思います。ユダヤ人としての認識がすごく強くて、私は週に一度、ヘブライ語学校に行かねばなりませんでした。完結編で、ちょっと短めにお話しします。結果的に何が起こったかということ、ある時、私の母がユダヤ人女性と出会って、その人が母にイエスのことを話し始めました。そして、母はとても気を悪くすると同時に、とても好奇心を持ちました。で、結局どうなったかということ、母は探索し始めたんです。そして、ある時点で母は、イエスがユダヤ人のメシアであるという、この異常な結論に達しました。父は泣きました。父は怒って、こう言いました。「なぜお前は、私達の民を裏切ったのか？」手短かに言うと、父はいろいろと質問し始めました。そしてまた、これはすごい話なんです、子どもの頃、私の家庭で聞かれる罵り言葉の中で最もひどい言葉は、「イエス・



キリスト」でした。父は…数ヶ月間、格闘した結果、イエスがユダヤ人のメシアであることを否定できなくなりました。彼は信仰を持つようになりました！そして、その後すぐに私はたくさんの質問をするようになりました。そして私は、イエスという名の、この人のことが大好きになりました。これほど美しい人に出会ったことはありませんでした。また、私の人生には、何か深刻に欠けているものがあると感じました。また、私には恐らく神に対する「恐れ」があったのだと思いますが、私は、自分の人生には何か問題があると理解していました。そして、聖書を読み、勉強するようになると、イエスが私の主であり、救い主であり、メシアであることを確信するようになりました。

アミール： すごいですね。今は博士で、イスラエル聖書大学の教授をお務めですね？

ポステル博士： そうです。

アミール： 少し前に、私はあなたの講義に出席しました。新約聖書の筆者たちから見た、新約聖書に反映されているキリストの神性に関して。それは、実はユダヤ人以外の人たちがイエスを信じるように説得する講義/説教でしたが、一世紀、第二神殿時代のユダヤ人が、当時、すでにイエスを神として提示していたことを、非常に学術的に示されました。それは革命的です。

ポステル博士： ええ、この講演の背後には、よく考えてみると、私達がよく耳にする次の考えがあると思います。

「信者と自称する人々の中の異邦人のキリスト教徒たちが、ある時点で私達の信仰を歪めてしまった。ある時点で、彼らがイエスを完全な神という存在に変えてしまった。ある時点でキリスト教徒たちが、私達の信仰を歪め、三位一体を信じるようになった。しかし、第二神殿時代のユダヤ人が、イエスが完全に神であることや三位一体を信じるはずがないのは、誰もが知っている。新約聖書には三位一体のことは書かれていないので、それは我々の信仰の歪曲だ」

それで私がしたかったのは、ただ新約聖書の証拠だけを見て、イエスが神である事を人々に納得させようとすることなく、新約聖書の筆者たちは、イエスを神として提示しているかどうかを示すことでした。もしそうだとしたら、第二神殿時代に結びついた信仰が存在していた事になりますから。言い換えれば、イエスが神であると信じるのは、後に異邦人によって歪められたのではなく、これは、とてもユダヤ的である、ということになります。それが講演の要点だったんです。

アミール： それでは、第二神殿時代のユダヤ世界にさかのぼってみましょう。当時はまだ新約聖書がなかったことを私達は皆、知っています。ですから、新約聖書に「書かれている」とか「聖書に」と書かれている時には、それは明らかに旧約聖書のことを指しています。当時のユダヤ人のほとんどは旧約聖書をよく知っていました。そして、最も一般的で、最も重要な祈りの一つ、ユダヤ人がよく暗唱するものに「シェマー」があります。

「聞きなさい。イスラエル。主は私達の神。主はただひとりである」 (申命記6:4)

これが、彼らにとって最も重要であり、彼らがキリストの神性と三位一体の概念を受け入れられない理由です。神は「ただひとり」だから！「聞きなさい。イスラエル。主は私達の神。主はただひとりである」先生は、そのような主張にどのように対応していますか？

ポステル博士： そうですね、これは本当に面白いんです。信者ではないユダヤ人学者が、最近書いた本に触れたいと思います。彼はベンジャミン・サマーという、アメリカ出身の宗教的ユダヤ人男性です。彼は『The Bodies of GOD (神の身体)』という本を書きました。『The Bodies of GOD (神の身体)』それは難解な本で、理解しやすくはありません。しかし、基本的に彼がその本の最後に主張しているのは、私達が聖書の文献を真剣に考慮すれば、…私達が初期のユダヤ教を真剣に考慮したとしても、全く問題はありませぬ。ユダヤ教は、神が三位一体であるという信念には何の問題もないはずで、全く何の問題もありません。

ん。ただ、彼は続けて、もちろん私達はイエスを偽のメシアとして拒絶する、と言います。だから、彼が何をするかと言うと、聖書の文献をすべて調べて、トーラーから始めるのです。本当に面白いのは、トーラー自体が神の結束を示しているのが見えてくると、「三位一体の神」を信じるための土台がしっかり整っている、という結論に達するのです。神がどういうお方かについて、トーラー自体が証言していることに完全に基づいています。それで、トーラーによると、神はシナイ山でイスラエルに会うんですね。神はシナイ山でイスラエルに会います。そして、興味深いことに、神はシナイ山の頂上に住んでおられることが分かります。シナイ山には三段階の神聖さがあります。そのように考えてみれば、神は頂点におられ、そこに行けるのはモーセだけです。真ん中には祭司級の人たちが、モーセと一緒に登って行ける場所があり、交わりの食事をすることができますよね？ヨシュアはそこに行くことができました。そして、残りのイスラエル人は丘の麓ふもとにのみ、行くことができました。いいですか？それが実際に幕屋のかたちの基礎になるわけです。至聖所やどがあって、大祭司が入ります。で、本当に面白いのはここです。トーラーによると、神はシナイ山に宿られます。神はシナイ山に宿っています。そして、モーセが出エジプト記の最後に幕屋を完成させ、神の栄光が幕屋に降りてきます。そこを読んでもいいでしょうか。本当にすごいです。

アミール： もちろんです！私は、出エジプト記のあの話が大好きです。

ポステル博士： 出エジプト記40章を見ると、出エジプト記の終わりごろに、驚くべきことが起こります。出エジプト記40章34節。

「そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた」

だから今、神は引っ越します。以前はシナイ山の頂上に住んでおられましたが、今、神は幕屋の中に移ります。注目してください...35節です。

「モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである」

では、神の臨在は今、どこにあるでしょう？幕屋の中です。神はどこでしょう？幕屋の中におられます。事実、レビ記1章を見ましょう。それはかなり目を見張るものです。そしてヘブライ語だと、これに気づきますが、英語では見逃してしまいます。その書の名前は『ワイクラ（ヘブライ語）』「神は呼ばれた」ですよ？「**彼(主)はモーセを呼び寄せ**」と書いてありますね。彼とは誰でしょう？「彼はモーセを呼び寄せた」の主語を見つけるには、実際には、それに先行する書を調べねばなりません。主語は「主」ですね？そして、続けてこう書かれています。「**主はモーセを呼び寄せ、…彼に告げて仰せられた**」どこから？「**会見の天幕から**」主はどこにおられますか？

アミール： 会見の天幕です。

ポステル博士： 神は会見の天幕の中にいます。そうですね？トーラーによれば、唯一の神、

「聞きなさい。イスラエル。主は私達の神。主はただひとりである」(申命記6:4)

神は会見の天幕に住んでいます。そうですね？ はい、でもそれだけではありません。申命記26章を見ましょう。申命記26章15節。神はどこに住まわれますか？

アミール： はい、15節でこう言っています。

ポステル博士： モーセが祈っています。

アミール： はい、モーセが祈っていて、次のように言っています。

「あなたの聖なる住まいの天から見おろして、…」

ポステル博士： 止まって！神はどこに住んでいますか？

アミール： 天に。

ポステル博士： はい。実際、トーラーは二つの神殿があると教えています。

アミール： 天にひとつ、地にひとつ。

ポステル博士： 天には本物があって、地には、その写しがある。そうです。

アミール： では、神はどうやって両方にいられるのですか？

ポステル博士： その通りなんです！つまり、本当にすごいのは、現実にとーラーが教えているんです。あなたが持っているのは写しで、主の栄光がその写しの中に住んでいることを。本当に、神の栄光が幕屋よそおを装っているかのようです。神は布を身に着け、天の神であることを止めることなく、その民の間に住まわれるのです。

アミール： 面白いですね！

ポステル博士： ヨハネの福音書みたいです！

アミール： その通りです！

ポステル博士： ヨハネ（1:14）と同じです。

「ことばは人となって、私達の間に住まわれた」

アミール： そうですね。出エジプト記33章を読んでいて私が衝撃を受けたことの一つに…、あなたも、それもよくご存知でしょう。旧約聖書の中で一番好きな章の一つです。9節にこう書いてあります。

「モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、…」

しかし、もちろん数節後では、モーセには神を見る事が出来ないことがわかります。

ポステル博士： はい。

アミール： だから…

ポステル博士： だから、トーラーは、すごく、あっと驚くような事を提示しています。そして、それは神はひとりだということです。しかし、このひとりの神は、ひとりの真の神であることをやめることなく、いくつもの場所に、同時に住まうことができるのです。それで…例えば「主の御使い」の事を取り上げますね。私は「主の御使い」という訳語も好きではありません。おそらく、「主の使者」という表現の方が良いでしょう。でも考えてみると、出エジプト記3章と4章でこう書いてあります。出エジプト記3章で、これは本当に面白いので、読んでみます。出エジプト記3:2

「すると主の使いが彼に現れた。柴の中の火の炎の中であつた。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった」それから、4節にはこう書かれています。「**主は彼が横切つて見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、**」

では、柴の中にいるのは誰でしょう？ね？柴の中にいるのは誰か？それは主の使者なのか。それとも神なのか。それでトーラーからすでに分かることは、神の結末が非常に興味深く提示されているわけです。ですから、ひとりの真の神が降りてきて、天の唯一の真の神であることをやめることなく、芝の中に住まうことができるという事実は、神がひとりという事とは矛盾しません。そして興味深いことに、もうひとつ、非常に有名なくだりがあります。列王記上第8章。驚くべきくだりです！列王記上8章で、神は移動して…神は家を移されます。神は幕屋から神殿へと移動します。しかし、ここで興味深いことがあります。またしても、…それはとても長いくだりです。列王記上8章です。ソロモンが神殿を建てた後、神の栄光が至聖所に

入ります。デビル[ヘブライ語]、至聖所です。ですから、私達は、神が今、神の神殿の中に宿^{やど}っていることを知っています。しかし、ここで注目すべきことがあります。神の臨在が神殿に宿っている今、ソロモンの祈りの全体は...というも、彼は次のように祈りますから...

「神よ。私達がこの宮に向かって両手を差し伸べて祈るとき、あなたご自身が、あなたの御住まいの所である天で聞いて、赦してください」

では、トラーが教えているのは二つの異なる神がいるということでしょうか？ソロモンは、二つの異なる神がいると教えているのでしょうか？いや、彼は信仰の基礎となるものを教えています。神は実際に、非常に特別な方法で、ご自分の民と共に住むことを選ぶことができます。それが神の望みです。私達と共に住まわれる事が。それが主の使者であっても、幕屋の中の神の栄光であっても...

アミール： 主の「御言葉」つまり「メムラ」の中でも。

ポステル博士： その通り！それがイエスの肉体、神の幕屋であろうと、神の栄光は天の神であることをやめることなく、全面的に、完全に私達と共に住まわれます。

アミール： ええ。

ポステル博士： これがトラーなんです！

アミール： 創世記1:26を見てみましょう。

ポステル博士： いいですよ。

アミール： 創世記1:26私が知りたいのは、これをちょっと保守的に見たら…、創世記1:26は、次のように言っています。



「神は仰せられた。『さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。』」

創世記1:26は、誰のことを言っていると思いますか？「われわれ」と言うのは？

ポステル博士： はい。これは...私のやり方は...やはり私はユダヤ人信者として、自分の信仰を旧約聖書から説明する必要があると気づいたので...私は新約聖書を信じています。私は新約聖書を神の言葉と見ています。しかし経験則として、私は常に旧約聖書から新約聖書に導かれることにしています。新約聖書で、旧約聖書を再解釈するのではなくて。なぜ私はそうするのか？それは、私達は同胞に語るべきだと思っているからです。ちなみに、私はまた、新約聖書の著者たちが旧約聖書を正しく理解していたことも信じています。では、私はこれをどう扱うか？まあ、ご存じのようにラシだったら、神は謙遜してそう言っているのだと言うでしょう。神は御使いたちと話していると。神はただ謙虚であることを示したいだけだ、と。それで...

「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、...」

神は御使いたちと話している。いいですね？さて、疑いの余地がないのは...

アミール： ラシは、イエスの後に来たラビ系の集団の中で最も尊敬されているラビの一人ですね。

ポステル博士： 1000年後、1100年後です。

アミール： だから、彼がしようとしているのは...イエスの1100年後に彼は今、創世記1:26に、自分なりの決着をつけようとしている。

ポステル博士： その通りです。そして明らかに、彼がその方向に向かっている理由は、必ずしも彼が本文を理解しようとしているからではなく、キリスト教の解釈に反論しようとしているからです。ですから、問

題は、これは御使いたちのことを言っているのか、となります。この解釈にはいくつか問題があります。最大の問題の一つは、旧約聖書における創造は、独占的に神に属する行為であるということです。

アミール： その通りです。

ポステル博士： それで...

アミール： 御使いたちは創造することができません。「われわれに似せて造ろう」と言ったのは...

ポステル博士： これは...神の行為というものがあるんですね。それが神、つまり創造主と被造物とを区別するのです。そして、創造主を被造物から区別する主要な行為の一つに「創造」があります。

アミール： その通り。

ポステル博士： それがまず一つ目ですね。しかし、二つ目は、文脈を見てみると、第1章に、一人でも御使いが登場しますか？

アミール： 全くありません。

ポステル博士： 一人もいません。だから...ここで驚くかもしれませんが、でも、ここで気づいてほしいことがあります。本文の中にヒントを探すとしたら、話しているのは誰ですか？「**さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、**」私は、聖書の一番良い解説書は、いつも聖書だと思っています。ですから、本文を見てみましょう。この章では、神はひとりきりでしょうか？他にだれもいないのか？ここに本当に驚くべきことがあります。創世記1:1-2を見てください。

アミール： はい。創世記1:1-2。これは誰もが知っていますね。

ポステル博士： そうです。

アミール： 「**初めに、神が天と地を創造した。地は茫漠として何もなかった。やみが大水の上であり、神の霊が水の上を動いていた**」

ポステル博士： すごく注目に値するのはこれです。本当に驚くべきことです。本文だけに依存すれば、いいですか？私はこのくだりを、言ってみれば、新約聖書から読み戻すみたいなことはしたくないんです。本文だけ使いましょう。ここに本当に目覚ましい事があります。創世記1章で神はひとりですが、ひとりきりではありません。

アミール： はい。

ポステル博士： 神はひとりでありながら、一人きりではありません。そこには神がいます。1節。そして誰が神と共にいるのでしょうか？神の霊です。そして、26節で神が「**われわれのかたちに似せて人を造ろう**」と言っている事実で、「誰が話しているのか？」となります。ここにあるのは、…他に選択肢はありません。私達は、聖書解釈学的には、少なくとも神と神の霊がいる、と言わねばなりません。それだけでも、すでに、すごいです。私達が同胞を説得しようとして話をし、こう言う時…「聞いて。ひとりの神が複数の人格で存在すると信じるのは、全く聖書的なことなんだ」ここには典型的な例があって、神と神の霊が共に世界を創造しているんです。

さて、何が面白いかということ、箴言…『箴言』という書。神は、どのようにして宇宙を創造しましたか？神の知恵によって。神の知恵は神の霊です。さて、もちろん言うまでもなく、聖書の他の箇所では、例えば詩篇33篇で分かるのは、神が世界を想像されたのは、神の知恵、すなわち神の霊によっただけでなく、また、神のことばにもよりました。神のことばにもよったのです。それで、私がここで単純に言いたいのは、本文だけを使っても、すでに、この神の結束を認識するための驚くべき基盤があるんです。創造するひとりの神、しかし、複数の人格です。ですから、「神の霊」があります。「神」があります。「主の使者（御使い）」があります。神殿に住まわれる「神の栄光」があります。神の「顔」があります。これらすべてのことが、「三位一体の教義」を理解するための驚くべき基盤を与えてくれているのです。「三位一体」という言葉は、新約聖書には一度も登場しません。しかし、それは単に、聖書が教えていることを捉えた言葉なの

です。ひとりの神が（アミール： 神の三位一体性。）

ポステル博士： 複数の人格で存在している。それは完全に聖書的なんです！そしてそれは、完全にトラーに基づいているんです。

アミール： 旧約聖書の中には、メシアの神としての正体を明確に示す箇所があると思いますか？

ポステル博士： はい。興味深いことに、イエスの神性について話す前にでも…私は、新約聖書はそのようにイエスは神であると教えていると信じていますが、この議論をもう少し前に戻してみましょ。旧約聖書は、神としてのメシアを提示しているのか？私はたくさんの聖句を示せます。イザヤ書でも、詩篇でも。しかし、よく見落とされがちな書の一つで、この議論の鍵を握る書だと私が思うのは、ダニエル書です。では、ダニエル書7章を見てください。すごいものをお見せします。ダニエル書7章

アミール： はい、ダニエル書7章。

ポステル博士： アラム語で書かれています。

アミール： もちろん。でも、英語がここにあります。

ポステル博士： いいですね。英語がありますね。ヘブライ語訳もお持ちですね。でも、アラム語で気づいてほしいことがあるんです。アラム語では、人々が見落としてしまう とてつもなく重要なものがあるんです。では、構図を説明させてください。

アミール： いいですよ。

ポステル博士： 構図を説明したいんです。ダニエル書は、本当に興味深いことに3つの部分から成り立っています。1章から2章4節まではヘブライ語です。2章4節後半から7章の終わりまではアラム語。8章から12章まではヘブライ語。さて、これがどのように展開するか…これはもう…美しい図式なんです。ダニエル書の前半、つまり1章から6章までは物語になっています。ダニエルとその友人たちの物語。7章から12章まではダニエルの幻です。蝶番（ちょうつがい）の章はアラム語で書かれています。それは第7章です。だから第7章には二重の目的があるんです。第一に…一つ目の目的は、それがダニエル書のアラム語の部分に属していることです。だからアラム語の部分につながるんですね。つまり、その書の前半部分に結びつきます。でも、それは蝶番なんです。と言うのも…

アミール： 一つ目の幻ですね。

ポステル博士： それは一つ目の幻なんです。それで蝶番の箇所になっています。それはダニエル書に関する神学上、最も重要な箇所です。さて、そこで何が起きているのか？驚くものです！物語の部分では、ダニエルと彼の友人たちは、神ではないものを崇拜するように試され続けています。神ではないものにひれ伏すように。神ではないものに祈るように。神ではないものにひれ伏すこと。：第3章。神ではないものに祈ること：第6章。いいですか？

さて、何度も出てくるキーワードは、アラム語の「パラッハ」という言葉です。「パラッハ」。あなたはヘブライ語でその言葉をご存知ですね。「プルハン(ןןחן)」。プルハン(ןןחן)とは何ですか？礼拝です。

アミール： 儀式です。

ポステル博士： 儀式ですが、それは、あなたが神としての存在に帰するものと結びついています。では、行きますよ。ダニエル書の前半、つまりダニエルの物語部全体を通して、ダニエルとその友人たちは、神ではないものを崇拜しないためなら死も厭いといません。彼らは、神以外のものにパラッハを与えることを拒否しました。第7章で何が起こると思いますか？重要な章です！この一章で、本の全体がまとまるんです！それは、章同士を結びつけるものです。13節と14節に注目してください。

「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、」

それで、「ただ人に過ぎない」と思うんですね。いいえ！彼はどこから来ていますか？天から来ています！

「年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった」

さて、そこにある「仕える」というのは何という語ですか？

アミール： 「礼拝する」です。

ポステル博士： 礼拝です。同じ言葉です。「パラッハ」

アミール： イエハルフン(יְהַלְלֵנּוּ)

ポステル博士： イエハルフッレ。つまり、ここがすごいんです。なぜダニエル書は、全体の中で最も重要な章の中で…それ以外の所では、その言葉は神に対してのみ使われると教えています。なのに、ここでは突然、神の国を完成させるのに、諸民、諸国、諸国語の者たちが、今、人の子を礼拝しています。人の子は神の一員でなければなりません。彼は神でなければなりません。もしそうでなければ、この章はその書全体、そしてダニエルが教えてきたすべての事に矛盾してしまいます。それで、イエスが裁判でこの一節を引用された時に、宗教指導者は何と言うのでしょうか？「冒涇だ！彼は冒涇している！」なぜですか？それは、イエスがご自身を神としての人の子だと名乗っているからです。

アミール： はい。

ポステル博士： これは神でなければなりません！

アミール： そして、人々が理解してないのは、彼がメシアだと名乗ったことが冒涇とされたのでは決まらなかった事です。そうではなく、彼らの考えでは、メシアは人間である可能性もありました。彼が神の性質を持っているとし、彼と父とはひとつであると主張した事実。彼が自分を神と等しくした事。それこそが、冒涇だったんです。

ポステル博士： 全くその通りです。何が面白いかというと、新約聖書を読んで、イエスは決して自分が神であるとは言わなかったと主張する人達がたくさんいます。おかしいのは、常にイエスを石打ちにしようとしていた宗教熱心な人たちが…

アミール： 彼らは、そのためにイエスを非難していたんです！

ポステル博士： 彼らはいつも…だから、実にイエスが何と主張しているのかと思うならば、彼を石打ちにしたがった宗教熱心な人たちを調べればいいんです。なぜ私達は2000年後の今、実際にそこにいて、イエスの主張を聞いて、彼に石を投げようとした宗教熱心な人たちよりもイエスをもっとよく理解していると主張するのでしょうか。なぜか？「アブラハムが生まれる前から…」彼は「わたしはいた」とは言わなかった。彼は「アブラハムが生まれる前から、わたしはいた」とは言いません。それは文法としては良いのですが、彼は「アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです」と言われます。神だという主張です。

アミール： はい、全くです！これは見事です。これこそが、まさに世界中の多くの人たちの問題だと思えますから。彼らは二つのことを理解していません。旧約聖書の本文と2000年前のユダヤ人の理解も。なぜなら、繰り返しますが、彼がメシアであることを非難した人は一人もいません。冒涇だという非難は、彼が神であるとの言及です。このように言ってみましょう。もし彼が神であることを理由にローマ人に渡され十字架につけられたとしたら、ということは、それがまさに彼が主張した事であり、そして、それは「彼はそう言った」と彼らが主張した事であり、そして、彼はその事で十字架に至ることも厭わなかったのです。それが真実だから。

ポステル博士： 彼は反論しなかった！

アミール： 一度も反論しませんでした。

ポステル博士： 実際、彼は証言しました。

「人の子が、力ある方の右の座に着き、（中略）、あなたがたは見るはずです」

彼はダニエル7章を引用して、それをご自身に適用する事によって、彼は実際に「わたしは神の一部だ」と言っています。

アミール： キリストの神性を否定するキリスト教のカルトとか宗派が多いようで、そして、彼らの主張の一つは、新約聖書の中で実際にイエスが神であると明白に述べている聖句があまりないということです。この発言には、どう答えられますか？

ポステル博士： そうですね、それは私が何年も何年も考えたことです。私は本当にこう思うのですが、イエスの神性という概念は、あなたの救いについての理解すべてに大きな影響を与えます。イエスが小さければ小さいほど、救いにおいて あなたが大きくなるといけないんですね。「低いキリスト論 (Low - Christology)」と、私達が「行いによる救い」と呼ぶものには関係があります。だからエホバの証人では、彼らは一生懸命努力しなければなりません。イエスは神ではないから。彼には助けが必要なんです。私達が救われるために、彼には助けが必要なんです。でも私が言いたいのは…私がイエスの神性についての問題を考えてきて、それは4本の柱に基づいていると見ています。そして私に言わせれば、イエスの神性を論じる上で、これらの四つの柱は非常に重要なのです。

第1の柱は「イエスは神か？」という問題に行く前に「旧約聖書はメシアが神であると教えているか？」ということです。そして、本当に良い、素晴らしい一節があると思います。私達はダニエル書にあるのを一つ見たところです。それが第一の柱なんですね。

2本目の柱は、「新約聖書には、実際にイエスが神であることが直接書かれている聖句があるのか？」驚くでしょうが、はい、イエスが神だと言っている聖句はあまりありませんが、それでも、かなり明白なものが、いくつかあります。ヨハネ1:1

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」

いいですか？しかし、完全に見落とされている柱が他にも2本あります。私は、それらは一番大事なものだと思います。そして、それらはイエスが神であることを圧倒的に示していると思います。

3本目の柱は、「新約聖書の中に、神のみに属する行為、発言、特質をイエスに帰している聖句はあるのか？」

アミール： 旧約聖書の中からですね？

ポステル博士： はい、旧約聖書の中から。嵐を沈めること。

アミール： 全くです。



ポステル博士： マルコによる福音書4章には、驚くべきくだりがあります。そこには、ヨナの物語との多くの類似点があります。イエスは船に乗っています。イエスは眠ります。嵐が来ます。船員たち、弟子たちは彼を起こします。「先生、私達がおぼれて死にそうでも、何とも思われないのですか」嵐は収まります。そして、弟子たちは大きな恐怖に包まれたと書かれています。これはマルコの福音書の中にあります。さて……何が面白いかというと、ヨナ書の第1章とイエスの物語との間の類似性を見始めると、さて、明らかに、イエスは預言者ヨナのように逃げているではありません。それは明らかです。しかし、はっきりしているのは、その二つの物語の間には、いくつかの類似点があることで、突然、気づくのです。嵐を静めるのは誰なのか？

アミール： はい。詩篇89篇8節と9節です。

ポステル博士： その通り！嵐を静めるのは誰か？それはイエスです！そして突然気づくのは、旧約聖書全体を見渡してみると、神の属性の一つであり、神を被造物のすべてから区別するものは、天候をコントロールする神の能力です。嵐を静める能力です。それは独占的に神にのみ属する行為です。それで、弟子たちが、「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう」と言った時、それはまた、マルコの福音書2章を思い出します。

「神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう」（マルコ2:7）

ですから、ここにあるのは新約聖書の中でイエスが独占的に神にのみ属する行為を行った典型的な例です。

そして、第四の柱があります。とても説得力があります。第四の柱は本当に驚くべきものです。と言うのも、新約聖書は絶えず旧約聖書を引用しているか、旧約聖書を暗示しています。そして、非常に頻りに新約聖書の筆者が旧約聖書にあるくだりを取り上げ、それをイエスへの言及として引用しています。それはイエスなんです！しかし、旧約聖書を振り返ってみると、それは誰のことでしょうか？

アミール： 神です。

ポステル博士： YHWH(יהוה)主、神、エホバ。だから…彼ら自身が冒涇していたか、あるいはイエスが神に違いないことが、彼らには はっきりしていたかのどちらかです。重ねて、何がすごいかというと、私達は、1世紀の第二神殿時代のユダヤ人の話をしているんです。..非常に強い観念を持っていた人たちです。例を一つ、ピリピ人への手紙2章にある、最も驚くべき例の一つを挙げてみましょう。私達はピリピ人への手紙2章のくだりを知っています。

アミール： はい。開きました。

ポステル博士： 6節に注目してください。こうあります。（口語訳聖書）「**キリストは、神のかたちであられたが、…**」その続きは？「**神と等しくあることを、固守すべき事とは思わず、**」神との完全な平等性です。しかし、それから先を読むと、9節に注目してもらいたんです。9節から11節を読んでもらえますか？

アミール： はい、こんな感じで書いてあります。

「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです」

ポステル博士： ここで人々が気付いていないのは、…これは信者であろうとなかろうと、聖書学者たちが一致している事なんですが、パウロは実際に…パウロはイスラエルの聖典を使いました。パウロはユダヤ人でした。パウロの聖書は旧約聖書でした。

アミール： 当然、彼は新約聖書を知らなかった。彼はそれを書いたんですから！

ポステル博士： その通り！

アミール： 今から、このインタビューの中で最も重要な話題に入ります。そして、それは私にとって本当に重要なものです。なぜなら、それは生死に関わることだと、私は心の底から思っていますから。それは…失われるか救われるかの問題なんです。つまり私が言いたいのは、イエス（イエシュア）の神性を信じることは救いに不可欠だと思いますか？これは、ものすごく明確でなければなりません。すごく、はっきりしていないといけません。人は、自分は新生して、御霊に満たされたクリスチャンだと自称しながら、イエスの神性を否定することはできますか？

ポステル博士： わかりました。私に聞く必要もありません。使徒パウロに聞けばいいんです。

アミール： 使徒パウロに聞いてみましょう。

ポステル博士： ローマ人への手紙11章を見てみましょう。失礼、ローマ人10章です。

アミール： ローマ人への手紙10章。ローマ人への手紙は、私達の信仰の大憲章です。ローマ人への手紙10章を見ましょう。10章で彼が何と言っているか、見てみましょう。

ポステル博士： はい、それでは...よろしければ私が少し読みますね。...えーと、8節から始めようと思います。いいでしょうか？

「では、どう言っていますか。『みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。』これは私達の宣べ伝えている信仰のことばのことです」

「私達の宣べ伝えている信仰のことば」とは何か？「もしあなたの口でイエスを主と告白し、…」ここで「主」いうギリシャ語は「クリオス」です。

アミール： クリオス。

ポステル博士： クリオス。これはヘブライ語では「アドン」といった意味になり得ます。「旦那様・先生(sir)」とか、「主(lord)」という意味にも。

アミール： ヘブライ語ではそうなってます。

ポステル博士： 「神」という意味もあります。

「もし、あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で 神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです」

はい。実際に、イエスが「主」であることを告白しなければならない。

アミール： はい。

ポステル博士： さて、彼がここで意味しているのは、「旦那様・先生」に過ぎないのでしょうか？続けて見ていきましょう。

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。『彼に信頼する者は、失望させられることがない。』ユダヤ人とギリシャ人との区別はありません。同じ主が、…」

ここで「主」とは誰ですか？イエスです。この前に、イエスが主であることを告白しなければならない、と言っています。

「すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです」

これを見てください。ローマ10章13節「『“主”の御名を呼び求める者は、だれでも…

アミール： はい。ヘブライ語では「エホバ」です。

ポステル博士： 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」

アミール： その引用は…

ポステル博士： パウロが引用しているのは…どこから引用していますか？ヨエル書2章32節です。ヨエル書2章32節。英語訳では2章32節です。ヘブライ語聖書では、3章1節か3章5節だと思います。しかし、ここに注目すべき点があります。パウロが引用しているくだりは…

アミール： 救いについてのもの！

ポステル博士： 旧約聖書にある救いについて。「YHWHの御名を呼び求める者は、誰でも救われる！」

アミール： そして、イエスがその主なんですね！

ポステル博士： 彼がその主です。ですから、私達がイエスがその主であることを口で告白しないならば、私達は救われないのです。それは私達の救いに欠かせないことです。パウロがそう言っているのであって、私、セスではありません。

アミール： その通りです。彼が神であるということによって、ある意味、あなたが救いのために努力することは、もはや必須ではありません。彼がすべてを成し遂げてくださったから！

ポステル博士： 最高ですよ！

アミール： 私達は行いによる救いは説きません。救いはイエスによります。でも、私達は、彼が誰なのかを必ず理解する必要があります。ところで、イエスが「わたしはあなたがたを全然知らない。（マタイ7:23）」と言うとき、「主よ。主よ」と言った人たちですが、この人たちは、彼が神である事を理解していなかった、あるいは、彼を神として知らなかった可能性があると思いますか？

ポステル博士： 聞いてください...繰り返しますが、これは...その特定の文脈では、私はもっと慎重に見なければなりません。いいですか？私がしたいのは、私は、とても明白なくだりを見たいんです。ローマ人への手紙10章を見てみると、信じられないくらいはっきりしています。興味深いことに、注目に値するのは...使徒の働き2章における、ペテロの最初の説教です。

アミール： 使徒の働き2章。

ポステル博士： 使徒の働き2章で、彼もこの一節を引用しています。

アミール： そうなんです！

ポステル博士： 彼は言います...「**主の名を呼ぶ者は、みな救われる**」（使徒2:21）

アミール： イエスについて。

ポステル博士： 彼の最初の説教は...ペテロは彼がした最初の説教で、イエスについて、この一節を引用しています。つまり、一番最初から。

アミール： 21節ですね。

ポステル博士： その通りです。イエスが主であることを信じなければなりません。

アミール： はい。私達は自信を持って言えますね。聖書的に、イエスが神であることを信じなければ救われることは出来ません。

ポステル博士： 彼が「主」であることを口で告白しなければなりません。

アミール： ヨエル書2章にあるのと同じ「主」ですね。それから、もちろんローマ人への手紙10章と使徒の働き2章でも。それは説得力があって大事なことなのに、あまりにも多くの人に見過ごされています。

ポステル博士： またしても注目に値することですが、やはりイエスを神として信じることは、異邦人のキリスト教の中で、非常にゆっくりと発展したものだと言う人達があります。それは時間の経過とともに起こったことだと。しかし使徒の働き2章で、ペテロがユダヤ人にする彼の一番最初の説教で、彼はヨエル書の「**主の名を呼ぶ者は、皆救われる**」という一節を引用して、それをイエスに適用します。つまり、一番最初の説教、聖霊が初代信者たちに臨んだ後の大衆向けの説教で、彼らはすぐにイエスが神であることを宣言しました。

アミール： ここでインタビューの結論に入りますが、ここまで信じられないほど素晴らしいものになりました。セス、あなたの説明で、人々はすでに信じていた事をさらに納得したか、または、今まで理解できな

かったことがやっと理解出来たのではないかと思います。…でもいくつかの聖句があって…例えば、コロサイ人への手紙1章15節。イエスについて、「**造られたすべてのものより先に生まれた方**」。ヨハネ14章28節「**父はわたしよりも偉大な方**」。これは、イエスが完全に神と等しくないように見えます。あなたは、それにどう答えますか？なぜそう言っているかという、私達はここで率直に話をしながら、イエスが神ではないことの証明として人々がいつもしがみついている、これらのものに取り組んで来ました。それで、どうお答えになりますか？

ポステル博士： では、「**死者の中から最初に生まれた方**」から始めましょう。いえ、「**造られたすべてのものより先に生まれた方**」ですね。では質問させてください。アブラハムの長子は誰ですか？

アミール： もちろん、イシュマエルですけど、…

ポステル博士： イシュマエルはアブラハムの長子だったのか？考えてみると、本当に面白いんです。彼は長子ではなかった！なぜか？神はイサクを選ばれたからです。言い換えると、長子というのはいつ生まれたかとは関係がないんです。

アミール： ステータスなんですね。

ポステル博士： ステータスです！

アミール： アブラハムの長子は、イシュマエルではないのですね？

ポステル博士： イシュマエルではありません。

アミール： 年代的には、彼は先に生まれましたけど…

ポステル博士： 先に生まれた！

アミール： 先に生まれたけれど、彼は長子ではない。

ポステル博士： その通りです。詩篇89篇では、神はメシアをすべての被造物の長子として確立されると書かれています。それが意味することは、後に説明していますが、被造物はメシアを通して、メシアによって、メシアのために創造されたのです。彼は、神がこれまでに作られたすべてのものの相続者です。彼は長子なんです。そして、いいですか？私達がイエスを信じる時、私達は共同相続人になります。私達は神の子供となるのです。ですから、この「長子」という言葉ですが、それが「先に生まれた」という意味だと言うのは、彼らが旧約聖書という背景なしで、この節を理解しようとしていることを示します。

アミール： 全くです。

ポステル博士： 今のは典型的な例ですね。「**父はわたしよりも偉大な方**」はどうでしょうか？

アミール： ヨハネ14章28節

ポステル博士： はい。興味深いことに、ヨハネの福音書14章12節を見ましょう。

アミール： いいですよ、ヨハネの福音書14章。はい、ヨハネ14章12節。以下のように書いてあります。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、また、それよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう」

ポステル博士： いいでしょう。ここでイエスは、弟子たちにこう言います。「わたしを信じる者は、…それよりもさらに大きな???」ギリシャ語でも同じ言葉です。

アミール： そうです。

ポステル博士： 同じ言葉ですね。「**それよりもさらに大きなわざを行います**」

アミール： はい。

ポステル博士： では、それはどういう意味ですか？私達は人々の為に死ぬのですか？

アミール： いいえ。

ポステル博士： 私達は…つまり、その発言を限定しなければなりません。どういう意味において、さらに大きいのでしょうか？あらゆる意味で？それは冒涇になるでしょう。私達が、イエスよりもさらに大きなわざを行なうとなると、私達の信仰を否定することになります。なぜなら、イエスがした事の中には、

アミール： 誰にも出来なくて…

ポステル博士： 彼の神性を断言するものがあったからです。

アミール： 私達が「私達は神だ」と言えないように。

ポステル博士： イエスを神たらしめる事を、私は行なう事が出来ません。だから限定せねばなりません。だから、イエスが「父はわたしよりも偉大な方」と言うとき、そのギリシャ語は、彼がすべてにおいてより偉大であるとは意味していません。彼はいくつかの事において、より偉大なのです。私が信じているのは、興味深いことに父と子は完全に対等です。夫婦が完全に対等であるのと同じように。それは私の見解です。完全に対等です。

アミール： でも、役割が違う。

ポステル博士： しかし、彼らには異なる役割があります。ですから、子は父に服従します。

「わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください」

役割の序列はあるが、神格の序列はない。なぜなら、イエスをより劣った神にしたら、どうなると思いますか？聖書の信仰をギリシャ神話に置き換えることになります。

アミール： 本当ですね。

ポステル博士： ギリシャ神話では、いろいろなレベルの神がいますから。だから、「イエスはそれほど重要な神ではない。神性が低い」と主張する人は、誰でも聖書的な信仰を放棄して、ギリシャ的な異教徒になってしまうんです。

アミール： すごいですね。今日の締めくくりに、かなり衝撃的な統計をお見せしたいと思います。信じがたいかもしれませんが、ほとんどのいわゆる「クリスチャン」…イスラム教徒でも、ユダヤ教徒でも、ヒンズー教徒でもなく、彼らは自分たちをクリスチャンというカテゴリーに入れています…その彼らのほとんどは、キリストの完全なる神性を信じていません。あるいは、それが何を意味するかを理解していない。なぜなら、だれ



か他の人を高く上げるなら…たとえば、マリアを同じレベルに上げると、あなたは神を理解していないことになります。それは衝撃的ではありませんか？1世紀のユダヤ人が書いてから2000年後に、そして彼のあり方や言葉、行動、特質、性質、すべてを見た後でも、まだ地球上でクリスチャンを自称する人々の大半が理解していないし、同意もしていません。そういえば、最近行われた調査で、たしか40%とか30%のアメリカの福音派の人たちが、…間違ってるかもしれませんが、40%か何か…、イエスが被造物だと信じているんです。これはとても悲しいです。

ポステル博士： では、ここで明確にさせて下さい。

アミール： いいですよ。

ポステル博士： 私の意見では、福音主義者は、その100%がイエスが神であると信じています。イエスは神ではないと言った瞬間に、あなたは、もはや福音主義者ではなくなります。

アミール： それはそうですね。

ポステル博士： 言い換えれば、要するに…聖書は信じられないほどはっきりしています。またしても、ユダヤ人信者として、あなたと私は…私達は旧約聖書に照らして、聖書的にイエスを理解することの重要性をとて大事にしています。そして、そうし始めた途端に、イエスが完全に神の一員である以外、他の結論は出せなくなります。彼は完全に神です。

アミール： 全くです。

ポステル博士： 肝心なことは、これにはすでに触れましたが、しかし、それは私に言わせれば、とても重要です。イエスが小さくなる分だけ、あなたが大きくなります。お気づきの通り、イエスの代わりに物事を強調する多くの動きは、彼らはとても忙しいんです。だから、私は冗談を言いたいんです。これから言う事は異端に聞こえるかもしれないから、最後まで我慢して聞いてください。

アミール： いいですよ、私はどうせ異端者だと非難されてますから。

ポステル博士： 私のジョークは、「私達は、本当に行ないによって救われているのだ」私達自身のもではありません。私達は最初から最後まで、「主の働きによって」救われています。そして、イエスが誰であるかを理解した瞬間に、あなたはイエスの神性と人間性を、ともに理解するのです。あなたは初めから終わりまで、救いが完全に贈り物であることを認識し始めます。すると突然、良い行ないは実になるんです。

アミール： その通りなんです！それは実であって、救いへの道ではない。それは、既存するあなたの救いの実です。これはとても重要なことです！イエスは神ではなく、私達はそれに何かを付け加えなければならぬと示唆する人は、定義によれば、救われることが出来ません。私達は責めたり非難したりしてはいけません。私達は、あなたが理解し、あなたがその結論に達するように、説明し、教えているんです。あなたが救われるために。それが私達の望みです。人々に救われてほしいのです。ローマ人への手紙10章に基づいて。あなたが救われるためには、言い、信じ、告白して信じなければならない基本があります。

ポステル博士： 「行ないに基づく救い」の教義について考えてみましょう。あなたは決して休めません。

アミール： 絶対に。

ポステル博士： いいですか。イエスは私に言われます。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」 (マタイ11:28)

さて、聖書によると休息を与えて下さるのは誰でしょうか？

アミール： 神です。

ポステル博士： 神です。その聖句を完全に体験できる唯一の方法、休息を体験する唯一の方法は、

アミール： 彼が神であることを信じること。

ポステル博士： そして、彼が全てを成し遂げられた事を。

アミール： セス、実践的なレベルの話に移りましょう。実践的な観点からすると、信者がメシアの神性を理解することが重要なのは、なぜですか？

ポステル博士： ある話を使って、お答えします。

アミール： はい。

ポステル博士： 何年も前ですが、娘は私の言うことを聞きませんでした。彼女は幼かったんです。私は言いました。「また言う事を聞かなかったら、部屋に連れて行って叩くからね」彼女は言う事を聞きませんでした。部屋に入ると、私はこう言いました。「何でここにいるのかな？」彼女は「私が言う事を聞かなかったから」と言いました。「パパはどうするって言ったかな？」「叩くって言った」「パパはお前を愛してるかい？」「うん」そして、彼女の唇が突き出して震え始めました。分かりますよね？でしょ？その瞬間、私

は袖を捲りました。彼女はとても怯えました。彼女は、パパがあんな風に袖をまくったのを見たことがあります。私は、彼女を見て言いました。「ヤエル、お前はパパのいう事を聞かなかったのだから、叩かれても当然なんだよ。でもパパはお前をととても、とても、とても愛している。パパはお前を愛しているから、お前の代わりに叩かれてやる」そして、私は自分の腕を叩き始めました。彼女の目の前で、本当に強く。彼女は泣いていました。私は言いました。「ヤエル、今、何が起こったの？」「パパが、私のお仕置きを引き受けたの」「パパは、なぜそうしたのかな？」「パパは、私を愛しているから」私は言いました。「パパは、そのお仕置きを受けて当然だったかい？」「うん。私が受けるべきだったの」「パパはなぜそうしたのかな？」「パパが私を愛しているから」私達は福音の核心を突いたと思います。

そして、過越の話は...神は、私達を救うために御使いを送られたのではありません。神はご自身で来られた！これが過越の全容です。神はご自身で来られた。私達は助けてもらう必要がありました。それで...神は、私達も含めて、誰にも栄光を与えたくありませんでした。私達が、私達の救いに貢献できることは何もありません。神がすべての栄光を受けられます。そして、神は十字架において愛を示されます。神は、完璧なタイミングで人となりました。私達の身代わりになって死ぬ為に。私達が神の愛を疑うようなことがあれば、私達は十字架を見て言うのです。「神様、あなたはものすごい代償を払ってくださった！」私は、肝心な事は、私達の救いにおいて、神がすべての栄光を受けられることだと思います。イエスは完全に神であり、他の方程式では神の愛を理解することはできません。私達は、決して神の愛を理解することがないでしょう。そして、私達は常に自分の救いに（何かを）加えたいかなるでしょう。

アミール： しかし、それに追加できるものは何もない。

ポステル博士： 全く何もない！神は私達を完全に愛しています！そして、彼は肉をまとして、私達のお仕置きを引き受けることによって、完全な愛を示してくださいました。

アミール： なんと素晴らしい時間だったでしょう！セス・ポステル博士！あなたは何冊か本を書かれて、他にも貢献していらっしゃいますから、よろしければ、ちょっとご紹介ください。いいですか？

ポステル博士： 喜んで。それで...これは本なんです...あなたがおっしゃったように、私は聖書大学「One For Israel」で奉仕しています。私は「One For Israel」の学部長です。そして、私達はただ...私達は神の御言葉を伝え、そして、ユダヤ人に伝道して、アラブ人やユダヤ人を訓練する事に情熱をかけています。それで、私達はこの本を書きました。いつもいただく質問の一つです。どちらの角度からがいいですかね。

アミール： 『モーセを読んで、イエスを見る』

ポステル博士： 私達が絶えず聞かれる質問です。トーラーと律法についてです。私達は律法を守るべきなのか？それで、私達は本を書きました。基本的に、その内容は、トーラーを忠実に読むことがどのようにしてあなたをイエスに近づけるのか。私の同僚のエイタン・バー...彼が書いた本が基本的に説明しているのは、ユダヤ人の口承律法は...

アミール： うん、作り話ですね。

ポステル博士： それは作り話です。神は天から口伝律法を授けられませんでした。

アミール： そして、これはヘブライ語の本ですね。私達がインタビューしたゴラン・ブロシ博士も共同執筆者の一人です。これは英語に翻訳中ですね。

ポステル博士： これは私が書いた本です。実は、私の博士論文でした。『イスラエルとしてのアダム』というタイトルです。繰り返しになりますが、この本、博士論文の要点は、創世記の初期の章がすでに、基本的に、私達にはメシアと新しい契約が必要になる事を、いかに予測しているかを示すものです。それが、その本で...



アミール： 『イスラエルとしてのアダム』

ポステル博士： 『イスラエルとしてのアダム』そして、この本には、私は寄稿しています。

アミール： これは素晴らしい本で、ムーディ聖書研究所から出てますね。

ポステル博士： そうです。私は...9つか10の記事を書いたと思います。旧約聖書がいかにメシア的であるかについてそして、それがいかにイエスを指しているのか。お勧めです...

アミール： 『メシア預言についてのムーディー・ハンドブック』マイケル・ライデルニクと、エドウィン・ブルムそして...もちろん、あなたは9~10くらい記事を寄稿されています。人々が、これをユダヤ人の目線、現地の目線から理解するのが、どうしてそんなに大事なんでしょう？

ポステル博士： ええ。

アミール： なんで、そんなに大事なんですか？

ポステル博士： はい、ただ私が単純に主張するのは...私達はイエスをその文脈の中で理解したいということです。

アミール： はい。

ポステル博士： 私達がイエスをその文脈から外れて理解しようとする瞬間に、それは、もはやイエスではないんです。だから、旧約聖書抜きで新約聖書を読もうとすると、新しい宗教になるわけです。イエスがユダヤ人であることを抜きにしてイエスを読もうとすると、あなたは、新しいイエスを作ることになります。

アミール： つまり、イエスはユダヤ人として死んで、非ユダヤ人として復活したわけではないんですね。

ポステル博士： そうです。そうなんです。彼は、まだダビデの子なんです！

アミール： もちろんです。

ポステル博士： 彼には、まだユダヤ人の母親がいる。つまり興味深いことに、もし、イエスがユダヤ人として死んで、非ユダヤ人として復活したとしたら、と言うことは、彼は、もはやメシアではないということになります。なぜなら、メシアはダビデの子でなければならないからです。

アミール： もちろんです。

ポステル博士： イエスは永遠にユダヤ人です。

アミール： 彼はユダ族の獅子です。

ポステル博士： アーメン！

アミール： アーメン。



←スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.05.01 (Sat)